



異文化を体験し、
世界とつながる。

AFS活動報告書2020



高校生留学の火を消さず、 意欲あふれる次世代の夢を実現



公益財団法人AFS日本協会

理事長

加藤 暁子

戦争のない世界にするためには異文化理解教育が必要と、1954年に初めて日本から高校生をアメリカに留学させてAFS日本協会の活動は始まりました。その歴史の中で、昨年ほど交換留学を継続させることがいかに困難であるかを痛感すると同時に、留学を望む高校生の熱意を受け止めて活動したいという1,500人のボランティアの気持ちが高まった年はありません。

あっという間に未知の新型コロナウイルスが世界中に伝播し、世界各地から留学生を緊急帰国させ、昨年5月にはとうとう留学生が1人もいない異常な日がやってきて、AFS日本協会は始まって以来の危機を迎えました。

「高校生留学の火を消さないで」「今こそ支援したい」と昨年末までに3,907万円にものぼるご寄付をいただきました。皆さまの温かい志を身に沁みて感じました。ここに深く、心からの感謝を申し上げます。

昨年10月末から日本政府奨学金「アジア高校生架け橋プロジェクト」でアジア17か国178人が半年遅れで来日。その後、24か国から44人のAFS留学生を迎えました。そして、今年1月から2月にかけて日本からイタリア、スイス、ドイツに9人の高校生を送り出すことができました。

しかし、今も私たちの住む地球は、新型コロナウイルスの感染拡大の猛威は止まらず、地球規模で想定外の豪雨、山火事など自然災害が猛威を振るい、クーデターが起き、独裁政権も生まれ、戦火は絶えることなく、難民は続々と国境を越えています。この困難極まりない時代に、果敢に世界に飛び出す意欲あふれる高校生たちの夢を実現させることが私たちの使命です。

地球の明るい未来は、次世代が世界中にネットワークを広げることにかかっています。安全を最優先に、信頼されてきた交換留学団体として、これからも世界中5万人のボランティアと手を携えていきます。どうか、これからも夢あふれる高校生たちの未来に手を差し伸べていただけないでしょうか。今後ともご支援を切にお願い申し上げます。

2021年8月



COVID-19への 対応・安全対策・アクション

2020年、AFSは、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて、留学生の安全を最優先に対応し、行動する一年でした。

3月、全世界7,000人が参加していた留学プログラムを一斉に中止。世界各国が次々にフライトの減便や運航を中止するなか、日本協会では、世界中のパートナー国とボランティア等の協力を得て、派遣生・受入生あわせて597人の緊急帰国に対応しました。

4月以降、北米・南米・アジア・欧州の国々において、感染が次々に拡大。派遣予定生の安全確保が困難となったため、日本協会は設立以来初めて、夏の年間派遣プログラム中止を決定しました。

6月、私たちは「ONE AFS 緊急募金」(⇒P.20) を設立。皆さまから頂いたご寄付やご声援に支えられ、海の向こうを目指すすべての高校生のため、「今しかできないこと」に注力しました。

皆さまのご支援のもとに、①ボランティア活動基盤の強化、②オンラインによる異文化理解プログラムの実施、③奨学金プログラムの拡充、④感染予防対策による受入プログラムの再開を実現しました。

受入プログラムは、政府のビザ発給が再開された秋以降、年末までに222人の留学生が来日を果たし、全国各地に滞在しました。



成田空港に到着したミャンマー生



プログラムを修了し帰国するフィリピン生

派遣プログラム(⇒P.4)



1. 全世界で進行中のプログラムを一斉に中止
2. 緊急帰国の移動日とフライト調整・手配
3. 緊急帰国生の再適応支援
4. 2020年度春以降の年間・短期派遣プログラムを中止
5. COVID-19に対する安全対策ガイドラインの策定
6. 希望者への次年度プログラム振替対応

受入プログラム(⇒P.6)



1. 来日生の緊急帰国対応
2. 「受入ガイドライン」「生徒体調不良時フロー図」作成
3. 来日遅延生の事前学習・オンライン交流を実施
4. 来日直後のPCR検査実施
5. 自主検疫期間中の生徒支援
6. 感染防止指導と衛生キットの配布

ボランティア活動(⇒P.8)



1. ホストコミュニティの新規開拓・ボランティア
2. オンラインによるコミュニケーション推進
3. ICL (異文化理解学習) 懇談会

オンラインプログラム(⇒P.10)



1. 『GCC(グローバルコンピテンス認証) 特別版』
(対象: COVID-19による早期帰国生)
2. 『Global You™ Adventurer』(対象: 世界の中高校生)
3. パイロットプログラム (対象: 国内のホストスクール)

派遣プログラム

世界36か国・地域に留学する 342人の緊急帰国に対応

AFS COVID-19

検索



2020年3月中旬、AFS国際本部は、世界中のAFS生およそ7,000人の一斉早期帰国を決定しました。各国AFS組織は、プログラム参加生の安全を最優先に、世界規模で緊急対応にあたりました。

日本協会では、日本から世界36か国・地域に留学していた派遣生342人の緊急帰国に対応しました。派遣各国のフライト運行状況、国内移動制限や出入国制限が日々変更されるなか、保護者の方々、国内外のAFSボランティア、そして各国在住の元参加生にご協力いただきました。早期帰国の決定から約40日で、派遣生全員の帰国対応を完了しました。

AFSは、創立以来、天災、政治危機や感染症などの非常時には、すみやかな判断・決定に努めてきました。2021年度は、AFS国際本部のガイドラインに基づいて、各国AFS組織や在外公館等と連携し、派遣予定国の感染状況や出入国に関する情報などをモニタリングしながら、派遣プログラムを慎重に再開・実施しています。



AFSの緊急対応に対する満足度

AFSは参加者の安全のために、
最善の行動をとったと考えている

85%

日本協会の派遣生・受入生 93%

上記生徒の保護者 96%

COVID-19の影響で早期帰国となっても、
AFS体験に満足している

78%

「AFSの緊急対応に対する満足度調査」
(回答数=61か国・4,961人／2020, AFS国際本部)より抜粋

早期帰国した生徒への対応

突然の帰国は、生徒に戸惑い・不条理さ・悲しみ・怒り・無力感など大きな心理的動揺を与えます。AFS国際本部は、参加生の再適応をサポートするため、異文化理解体験を振り返り、補完・統合する約5週間のオンラインプログラムを開発。早期帰国生全員に無償提供しました(⇒p.10)。日本協会独自の取り組みとして、①オンライン・オリエンテーションの実施、②同じ境遇にある仲間と体験を振り返ったり、体系的に整理する「スピーカーズコーナー」を事務局・学生部で共催しました。



“

どの国が、いつロックダウンになるのか？
24時間体制で帰国便を手配。

AFS日本協会事務局 派遣プログラム担当

どの国が、いつ、ロックダウンになるのか？ 時間とのたたかいの中で国際便も国内便もみるみる便数が減り、状況がめまぐるしく変わらる中で、安全に手配を進めるのは本当に大変でした。

国際便の手配は派遣国である日本が行うのですが、その便に乗せるためにはホストファミリーに連絡をとり、現地のボランティアに移動をサポートしてもらわなければならないので、受入国AFSとの緊密な連携が必要です。

飛行機の空きがあと数席しかないとわかったら、受入国スタッフを夜中にたたき起こして了解してもらったりと、時差のある中では本当に24時間体制でした。

移動の手配ができ次第、また変更や乗り遅れがあったときには直ちに、サポート担当スタッフが昼夜問わず日本にいる保護者の方と連絡をとって、不安や焦りの気持ちを受け止め、寄り添ってくれました。国内でも役割を分けたうえで連携体制がとれたことは良かったと思います。

生徒たちにはできる限り早い便を手配しますと伝えて、ヨーロッパ派遣生は大半が1週間程度で帰国となりました。パラグアイ派遣生にいたっては「7時間後にホストファミリー宅を出てください」という連絡になってしまい、パッキングもお別れの時間も十分にとてあげられませんでした。かわいそうでしたが、それを逃すと本当にいつ帰れるかわからない状況でした。

“

あのまま留学を続けていても…。
それでも、残り4か月を向こうで
過ごしていたら…。

2019年(66期) オランダ派遣生



2月の時点では、オランダには一人も感染者がいませんでした。しかし、イタリア北部からの帰国者がコロナウイルスに感染していたと報道されてから帰国までの1か月で、オランダの感染者数はなんと1万人にまで膨れ上がっていました。オランダは九州ほどの面積しかない小さな国なので、国民が仕事で全国を移動するというのが日常です。

感染者の増加に比例するかのようになり、コロナウイルスを理由に差別を受けることが多くなりました。街中で「コロナ!コロナ!」と叫ばれるたびに悔しくなり、一人で外を出歩くことも億劫になりました。

このままではいけないと思い、近所の障がい者施設でボランティアを始めました。新しく出来た自分の居場所では「どこから来たの?」「将来の夢は何?」という、留学1か月目に戻ったかのような質問から始まり、しかしあの頃よりも間違いなく成長したオランダ語で返答することができたことは、自信に繋がり、暗くなり始めていた自分を切り替えてくれました。

その生活も長くは続かず、3月14日に早期帰国の知らせが届き、18日に日本へ帰国しました。今思えばあのまま留学を続けていてもコロナウイルスという終わりの見えないストレスを抱えながらの留学は良いものにはなっていなかったと思います。それでもやはり、残りの4か月を向こうで過ごしていたらな、と考えずにはいられません。本当に素敵な7か月でした。



2020年度 派遣プログラムの中止

2020年7月、日本協会は、日本から世界各国へ派遣予定だった年間プログラム生(67期・夏組)30か国263人の派遣中止を決定しました。出発が内定していた高校生および保護者の方々に対して、①参加の取りやめ(参加費返金)、もしくは、②2021年(68期・夏組)出発プログラムへの振替を選択肢として提示し、個別に調整を行いました。

在籍校と調整を重ねた結果、翌年の参加を断念した生徒や、高校3年次の出発を予定していた生徒にとって、高校生活の一年は何ものにも代えがたいものでした。「このまま終わりにたくない」という生徒や保護者の願いを受け、事務局は、各国有志の協力を得て、67期・夏組生を対象に交流会を企画。体験型の異文化理解を推進してきた日本協会にとって、「67期・夏組生」は忘れてはいけない存在となりました。

留学を強く希望しながら振替ができなかった内定生には、AFS国際本部が提供する異文化理解学習オンラインプログラム『Global You™ Adventurer』(⇒P.10)を案内し、世界中の同世代と交流する機会を提供しました。

受入プログラム

留学生の来日を心待ちにした7か月

AFS 来日留学生

検索



AFS ホストファミリー

検索



2020年10～12月、2020年度の受入生40か国222人が来日。本来は3月末の来日予定でしたが、日本政府の留学ビザ発給再開を待ちました。

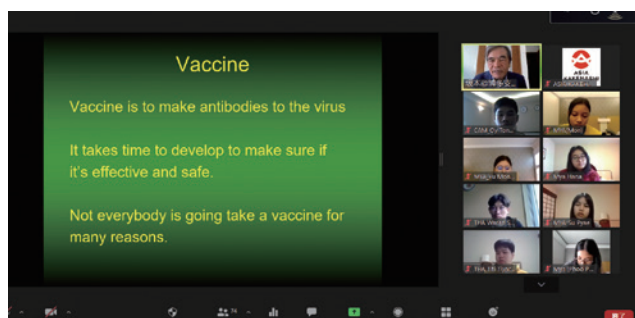
成田空港では、検疫と入国管理で約6時間かかるフライトも……。ようやく到着ゲートにたどり着いた生徒の表情は疲れがにじんでいましたが、出迎えた職員が持つAFSの旗を見つけたとたん、安堵の笑顔に変わりました。7か月にわたる長い待機を経て、プログラムが再開された瞬間でした。

受入プログラム実施にあたり、日本協会は、国際本部の指針に沿った独自の「留学生受入ガイドライン」を作成。留学生をサポートする全国約70支部、ホストファミリー・寮や受入校と共有したうえで、プログラムを実施しました。

海外留学が困難となった現在、AFS生の受入れは、日本の教育現場や全国の高校生にとって、さらに貴重な異文化理解の機会になっています。



安全対策 ①出発～自主待機期間



写真上 医師による健康管理指導セッション

写真中 3月に緊急帰国をしたラオスのリターニー（帰国生）が、手洗いビデオを制作

写真右 全国各地へ移動する際、留学生全員に配布した衛生キット（マスク・ハンドジェル・体温計）



AFS COVID-19

検索



AFSでは、各国の感染状況、入国規制、医療事情、学校再開の状況、治安、受入体制などに応じてプログラム再開の可能性をランク分けする「トラフィックライトシステム」を導入。基準を満たした国は、国際本部がプログラム再開の許可を出します。

日本協会では、受入プログラム開始にあたり、政府指針と独自の「受入ガイドライン」をもとに、安全最優先の対応策を実施しています。2020年は、留学生全員が①出発前（72時間以内）、②来日当日の計2回、PCR検査を受検。到着空港付近の宿泊施設の個室にて、2週間の自主待機を行いました。

待機期間中は毎日、事務局職員が検温と配食を行い、生徒の健康管理にあたりとともに、オンラインによるオリエンテーションを実施。生徒は自室からセッションに参加し、医師によるコロナ禍における健康管理指導をはじめ、SNS利用等の生活指導や、日本語学習の指導を受けました。

オリエンテーションと並行し、2週間にわたり個室で過ごす生徒の心理的サポートにも注力しました。全国各地のボランティアやリターニー（帰国生）が、オンライン交流を企画。ホストコミュニティとの交流時間を取り入れながら、滞在準備を支援しました。

全国各地域で留学生の到着を心待ちにしていたボランティアも、細心の注意を払いました。各地の感染状況を踏まえ、滞在中のサポートを対面またはオンラインで実施。例年通り留学生一人ひとりにリエゾン・パーソン(LP)を配置し、特に感染予防対策に力を入れたサポートや研修を行いました(毎月の連絡、中間オリエンテーションと帰国前オリエンテーション)。

受入校で休校が続いたケースや、風邪で発熱したりしたこともありましたが、誰一人として感染者を出さず*、地域の皆さんに温かく迎えられた留学生は、コロナ禍という特別な経験を学びに代えて、プログラムを修了しています。

*日本協会では、コロナ感染に備えて受入生が体調不良になった際の対応マニュアルを作成し、万が一の対応がすぐとれるよう対策しました。



コロナ禍でも、留学は未来を切り拓く力になる

留学生の日本滞在期間が短縮されたことに配慮し、2020年、AFS日本協会は、入国直後の自主待機期間にかかる費用、衛生キットや健康管理にともなう管理費などをすべて負担しました。

全国各地から寄せられる留学生の滞在の様子から、私たちは改めて、この異文化理解の旅が留学生や周囲に与えた影響を知り、短期間であっても異文化理解の目的が失われることはなかったと実感しています。

COVID-19の中長期的な影響として、留学生保護者の収入減や経済状況悪化も懸念されます。社会環境が厳しい状況でも、世界の10代が広い世界への憧れをあきらめないこと、そして、受入れに協力くださる地域にも、異文化体験の機会を提供し続けること。それが、国際理解教育を推進する私たちの責務だと考えています。

AFSは、アフター・コロナ時代を見据え、意欲ある10代が留学にチャレンジできるよう、奨学金プログラムの充実や政府補助事業を通して奨学生の受入れに、さらに力を入れていきます。

“

マスクをつけていても
友情の大きさに
関係はなかった。



フィリピン

サニー・ペリダ

(2020年度 アジア架け橋プロジェクト 奨学生)

このプログラムに参加するにあたり、私は自分の国の代表としての責任があります。最初の数週間はフィリピンの文化を小学生に共有したり、ボランティア活動に参加したりすることでその責任を果たしました。また、学校で特に英語の授業で私の文化を紹介することもできました。言語の壁は私が直面した最大の障害です。私は時々日本の文化に合わせることを忘れていました。「君は変わりたい?」これは私が自分自身のために日本を探索することを促してくれたお母さんの言葉です。このおかげで、私はようやく目を覚ました。その瞬間から、私は好奇心をもっと持ち、自ら何かを発見するようにしました。また、いつも私を支えてくれる人たちから学ぶことを覚悟しました。その大切な人たちは、会話を楽しめるようにするために私のカタコトな日本語を繋ぎ合わせる努力をしてくれたクラスメート、言葉の壁がある中でも授業を理解しやすくするために努力してくれた先生方、そして、私に多くのことを教えてくれた日本の家族です。彼らからは多くのことを学び、日本の文化についてもたくさん教を外国ではなく故郷のように感じることをできました。時々自分の国の文化が恋しくなっていました。ですが、私はいつも物事の良い面を見ています。コロナ禍の厳しい状況の中、日本は少ない制限の中でしっかりと踏み張って来ました。みんながマスクをつけていても、それは友情の大きさには関係ありません。私の計画がすべて思い通りになったわけではありませんが、一つだけ確かなことがあります。それは、私はさまざまな点で変わったということです。このプログラムでは多くの困難や挑戦がありました。もう少し時間があれば、約束したことは全て果たせたかもしれません。時間が短いからこそ日本にいる一瞬を大切にできるのだと思います。

ボランティア活動

留学生の成長が、地域の学び・自身の成長につながる

国際的なボランティア組織・AFSの最大の特長は、10代の高校生の成長を見守る「応援団」として、世界5万人以上のボランティアがその活動を支えています。国内には約1,500人のボランティアが、全国約70支部・4学生部で活動しています。

AFSには、留学生の適応過程を手厚くサポートする体制があります。留学生が何に驚き、戸惑い、つまづき、もうひとつの文化を受け入れ、成長するのか——ボランティアもまた、留学生に伴走する体験を通して、世界の多様性を学ぶのです。

ボランティアは、ホストファミリーや受入校のサポートも

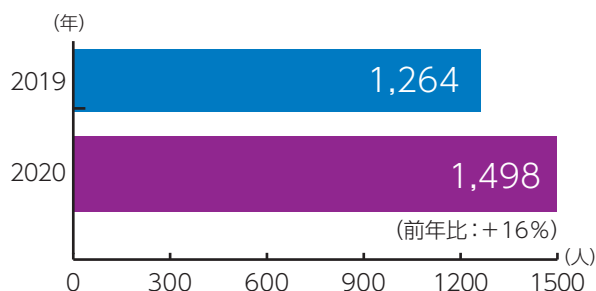
行うため、各々の役割に応じた継続的な研修が必要です。2020年は、ボランティアと事務局が連携し、オンライン研修・説明会の機会を拡大。結果、ボランティア登録者数とホストファミリー説明会の参加者数が、前年に比べ増加しました。AFS日本協会は、留学生の受入れニーズの高まりに応じるために、ボランティアの研修とエンゲージメントの強化、新たなコミュニティの開拓に、今まで以上に力を入れています。



ボランティアの役割

- マッチング
ホストファミリー・学校・留学生の三者をつなぎます。
- コミュニティでの異文化理解促進
留学生を地域コミュニティに紹介します。
- 適応支援
プログラム期間を通して留学生、ホストファミリー、学校の相談役となります。
- オリエンテーションの企画・運営
留学生、派遣生、ホストファミリー向け
- 交流イベントの企画・運営
- 説明会の企画・運営
派遣生、ホストファミリー、ボランティア募集など

●ボランティア登録者数



Voice from Volunteer



名古屋北支部
長澤さん



世界中に知り合いが増えたこと、その人の国を好きになることができることです。文化の違いを学ぶのが面白いと思ったり、ホストファミリーや学校とうまく橋渡しできたときに、達成感を感じられるのもいいですね。私自身も、活動を通して柔軟な考え方ができるようになってきたかな、と思います。



山口支部
嶋田さん



文化や宗教など、留学生を通してみるのができるのが面白いです。担当した留学生が帰国するときに「なぜ嶋田さんがボランティアをしているのかわかった。私も国に帰ったらボランティアをしたい!」と言ってくれたことはうれしかったですね。

留学生・ホストファミリー/寮受入校をつなぐ調整役

LP(リエゾン・パーソン)の魅力とは?

ボランティア活動は、自身の成長機会になる

COVID-19の影響で、2020年は全国各支部で学校訪問などの活動が大きく制限されました。一方で、オンライン会議システムの利用頻度が高くなるにつれ、ボランティアのIT運用スキルもアップ。緊急事態宣言等で外出がままならない時期は、ホストファミリーの家庭訪問もオンラインで実施するなど、新たな知恵、知識と経験が蓄積されました。



ボランティアは、来日が半年以上延期となった留学生とオンラインでつながり、来日準備を促すなど「オンラインだからこそできる新たな試み」に次々と挑戦。留学生の来日後も、感染予防のため、オンラインによる交流やオリエンテーションを工夫して行いました。



沖縄地域
加藤さん

“

沖縄には仕事の関係で来たのですが、留学生を通じて、ホストファミリーや学校など、地域のいろんな人と交流がもてたことは良かったです。地元の方から「留学生に紹介したことをきっかけに自分自身も地域のいいところを見直せて良かった」という言葉もいただけて、うれしかったです。



ボランティア研修レポート

“

ICL (Intercultural Learning) を
留学生のサポート現場で
さらに役立てたい!

ICL懇談会<ボランティア有志による勉強会>



留学生の受入れ現場でよく起こるトピックを毎回ひとつ取り上げ、異文化理解モデルを使って問題の背景を考えながら、成功事例を共有したり、解決の方法をみんなで考えたりしています。

初回のテーマは「ICLから見た私たちの新しいお弁当」。留学生の受入れにあたって、高校生のお弁当を毎日つくるのは大変という「お弁当問題」が全国のあちこちから聞こえてきます。お弁当が大変だからホストファミリーになるのは不安で……と受入れ自体を断られてしまうケースも少なくありません。

他の国でも同じような課題はあるのだろうか?と、日本から海外に留学した帰国生たちにランチ事情についてアンケートをとったところ「これをお弁当と呼んでもいいんだ!」と思える簡素な例がたくさんあがってきました。海外と日本のお弁当を写真を使って比較し、さらにICLツールの中から「文化次元モデル」を使って考えると、世界的にみて特徴ある日本のお弁当文化とその背景が見えてきました。

参加者からは「お弁当が“愛情の示し方”につながっていると気付いた」「“周りに見られたときに恥ずかしくない弁当でない”と、世間体とセットになっている、手が抜けないプレッシャーがある」といった感想が聞かれました。(中略)

正解が見つかるものではありませんが、私たち自身がどんな文化の中で生きているかという視点から考えることができ、とても有意義な勉強会になりました。

オンラインプログラム

予測不能な変化に対応できる、しなやかな力を育む

2020年は、世界中のAFSが「予測不可能性に、どう対応するか」が問われました。各国が国境封鎖やロックダウンに置かれるなか、異文化理解教育をどう推進できるのか。自宅から外に出ることすらままならない10代へ、世界とつながるよろこびを、いかに提供できるのか——AFSがつちかってきた経験とノウハウが試されたのです。

2020年4月、AFS国際本部は、留学が中断された帰国生を対象に、オンラインプログラム『GCC（グローバルコンピテンス認証）・特別版』を開発、参加生への無償提供を行いました。生徒たちは、緊急帰国にともなう心理的危機への対処方法を学び、互いの異文化理解体験を振り返りました。

同年7月、派遣予定が延期・中止となった各国の生徒や、異文化交流に関心のある生徒のニーズを受け、AFSは中高生向け異文化学習プログラム『Global You™ Adventurer』をスタートしました。渡航が困難となって

いる現在、“世界が相互につながっている”という特別な瞬間を提供するプログラムは、世界中の高校生が参加しています。

オンラインプログラムは、体験プログラムに置き換えられるものではありません。AFSでは、いかなる状況下にあっても、若者が「ともに生きることを学ぶ」場を創出するために、本事業を進めています。

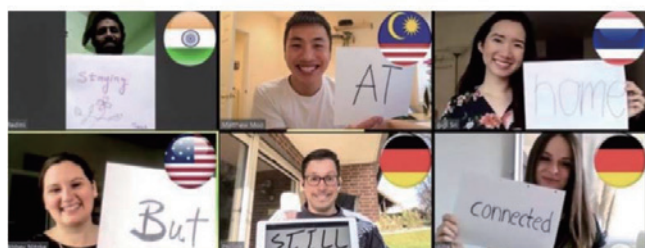


GCC(グローバルコンピテンス認証) 特別版

GCC Special Edition

検索

※英語サイトのみ



CONNECTING WITH OTHERS

A SHARED EXPERIENCE

CONTINUE THEIR INTERCULTURAL LEARNING JOURNEY

5か国語・650セッションが実施されたプログラムには、33か国77人のボランティアが認定ファシリテーターとして関わり、生徒の支援にあたりました

●緊急帰国生向けプログラム

『GCC（グローバルコンピテンス認証）』は、異文化理解学習に特化された、約5週間のオンラインプログラムです。世界中の生徒とのライブセッションやオンライン上の掲示板を通して、相互交流ができます。

「特別版（Special COVID-19 Edition）」は、緊急帰国生を対象に無償提供され、53か国5,862人が受講しました。

本プログラムの特長は、緊急帰国にともなう心理的な危機への対処・曖昧さの解消・回復力・柔軟性・違いを超えてつながる手法を、同じ経験を共有した世界の仲間とともに学ぶこと。

異文化体験を通して身につけた適応力・コミュニケーション力・多様な価値への共感力を「自信」に代え、アクティブな地球市民になる準備をサポートしました。



“

ホストファミリーとともに暮らし、異なる国の学校に通うという人生を変えるような経験は、何物にも代えがたいものです。しかし、この危機は同時に、「世界が相互につながっているという特別な瞬間」を通して、若い世代の学びを支援する機会でもあります。

(AFS国際本部 メリッサ・ライルズ)

● 中高生向けプログラム

AFS グローバルユー

検索



「海外留学はできなくても、異文化理解を深めたい」という14～17歳を対象に、異文化理解のスキルを学ぶ英語プログラムです。約5週間にわたり、世界中の仲間とともに“Adventurer (冒険者)”となって、英語で異文化理解を探索。①自分のペースで学ぶ「動画モジュール」、②世界各国からの参加者と意見交換する「ライブセッション」を中心に、自らを相対的に捉え、異文化との架け橋になることを目標にしています。

“

プログラムを通して自分を客観的に見つめることができました。また、ライブセッションにおいて、英語がよく理解できず難しく感じたときもあったけれど、あきらめずにやり遂げたことで達成感も得られ、積極性も身につく、人として成長できたと思います。

(日本からの参加者 14歳)



● 参加人数：51か国・542人

※日本からの参加人数=106人(全体の19.6%)

(2021年7月現在)

ホストスクール向けパイロットプログラム

● “教室”架け橋プログラム



政府補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト」参加生は、日本政府の留学ビザ発給再開まで半年あまりプログラムが延期されました(⇒P.6)。2020年8月、日本協会はパイロット事業として、アジアの高校生と日本の教室をつなぐオンライン交流プログラムを企画。授業時間・昼休みや放課後を利用し、全国20校が参加しました。

日本の高校からは、クラス・学校や地域を紹介するプレゼンテーションやクイズが出題されました。アジア生は、母国の概要・食生活・伝統文化や学校生活を紹介。当日に備え、日本とアジアの高校生がそれぞれ事前準備を進めた結果、生活や習慣のちがいを理解しあうことができました。

● 高校生記者交流プログラム

AFS 高校生記者

検索



2021年2月、「アジア高校生架け橋プロジェクト」受入校を対象に、オンライン学習と校内活動を組み合わせた2週間のプログラムを実施しました。全国11校25人の高校生が参加し、8か国15人の受入生を取材。インタビューで知り得たこと・発見したことを原稿にまとめ、発表をしました。

事前学習では、ICL(異文化理解学習)を推進するボランティアがファシリテーターとして活躍。生徒は、同世代の留学生が持つ文化的背景や行動様式を理解したうえで、取材と発表を行いました。



事前学習では、異文化理解について意見を交換するとともに、留学生への取材準備についてアイデアを出し合いました。



奨学金事業

Scholarship

すべての高校生が留学を志せる社会をめざし、AFSは、さまざまな給付型奨学金を設けています。すべての奨学金は、個人の皆さまと、法人・団体からのご寄付によって支えられています。ご寄付についてはP.22をご覧ください。

AFS 奨学金寄付

検索



奨学金の指定寄付・設立へのお問合せ

E-mail bokin@afs.or.jp

AFSの各種奨学金

*2020年中にプログラム参加を予定していた生徒のうち、時期を振り替えて2021年派遣・受入となった生徒数を含みます。

対象	奨学金	趣旨	奨学金支給額 (一人あたり)	募集人数	2021年度 支給人数*
派遣	寄付受付中 AFSボランティア奨学金	経済的必要度の高いAFS生の支援を目的とした奨学金です。帰国生有志の呼びかけで始まって以来、15年以上にわたり継続されています。全国対象のため、多くの申請希望が集まります。	50万円	5人	3人
派遣・受入	寄付受付中 AFSどさんこ奨学金	北海道を愛し応援する個人と企業の支援により、2011年に設立されました。未来の北海道と日本を担う人材を育成すべく、派遣生・受入生の支援に継続活用されています。	50万円	3人	3人
派遣	寄付受付中 AFS山形ふるさと奨学金 (山形いぐべ奨学金)	山形県の青少年のAFSプログラム参加促進を目的に設立された奨学金です。	50万円	2人	—
派遣	寄付受付中 AFSひろしま奨学金	未来の広島県と日本を担う人材育成を目的にした奨学金です。	50万円	1人	—
受入	寄付受付中 NEXT50奨学金	AFS日本協会が50周年を迎えた際の寄付金を原資とし、次の50年に向けて新しい一歩を踏み出そうと運用が始まった奨学金です。途上国から日本への留学を希望する生徒のプログラム参加費を全額支援しています。	日本への 年間派遣プログラム 参加費	2人	1人
受入	寄付受付中 YOSHI基金	アメリカに派遣された39期の故・服部剛丈氏のご両親からの寄付を元にした奨学金です。統のない日本の姿を見てもらうため、米国からの留学生を支援しています。人と人との絆の中で世界が変わっていくことへの願いがこめられています。	アメリカから日本への 年間派遣プログラム 参加費	1人	1人
派遣	AFS平和の鳩 プロジェクト	AFSを通じてアメリカに留学した故・木下由子氏のご遺志により、2019年にスタートした奨学金制度です。プログラム参加費全額とプログラム参加にかかる必要経費を支援するための準備金を支給します。	年間派遣プログラム 参加費全額+ 留学準備金30万円	5人	6人

【企業・団体による派遣生向けの奨学金】

①三菱商事高校生海外留学奨学金(最大60人)、②(公財)森村豊明会高校留学奨学金(5人)、③オデッセイIT奨学金(1人)、④田口福寿会AFS留学生奨学金(10人以内)、⑤東海東京財団留学奨学金(最大5人)、⑥(公財)新潟市国際交流協会高校生留学奨学金(1人)、⑦(公財)長岡市米百俵財団(3人)、⑧イトーヨーカドースカラシップ(10人)、⑨ソニーグループ国際教育基金(若干名) などがあります。

詳細については <https://www.afs.or.jp/goabroad/year-programs/scholarship/> をご覧ください。

Voice from One AFS

わたしがAFSを支援する理由

母は、AFS日本協会をはじめ、多くの方々のサポートを受けて留学することができました。母の人生のなかで、AFSで留学した一年は、最も輝かしい一年だったのではないかと思います。そして、留学の機会を与えてくださったAFSへの感謝と、自分と同じように留学するチャンスを少しでも多くの日本の若者が得られるようにとの思いからAFSへの



生涯で一番輝かしい一年を、日本の若者に。



寄付を決めました。

奨学生が社会人になり、なんらかの形でこの経験を社会に還元していただくことで、母の想いを引き継いでいただけたらと思います。

(1962年派遣/9期 故・木下由子様 ご息女)

Scholars Report



奨学生レポート

みなさまのご寄付により留学の機会を得た、奨学生5人のレポートを紹介します。AFSのプログラム参加生は、異文化の中で日常生活を送るうちに、価値観や生き方の多様性を知り、世界とのつきあい方を考えるようになります。同時に、自分自身について多くの発見をします。可能性に満ちた10代の、異文化理解の学びをご覧ください。

派遣奨学生のレポート

AFS 年間留学体験

検索



受入奨学生のレポート

AFS 来日留学生

検索



“

制限があるからこそ
精一杯、毎日を過ごしたい。

石黒 翔空 Toa Ishiguro

68期(2021年度) ドイツ派遣

AFSボランティア奨学金を受給



ホストファザー、ホストマザーとともに



ホストファミリーとのサイクリング

早いもので、もうすぐ留学してから4か月が過ぎようとしています。私は、ドイツとオランダとの国境沿いのWeezeという、人口1万人ほどの小さな町に配属されました。ホストファミリーはファザーとマザーのふたりで、私を本当の子どものようにかわいがってくれます。

私は初め、67期(2020年度)としてドイツに派遣されたのですが、新型コロナウイルスの影響によってわずか1か月で緊急帰国となりました。一年後にはコロナ禍がある程度収束するだろうと思い、もう一度68期として挑戦しました。しかし、世界的に新型コロナウイルスが蔓延している状況下で、いろいろな制限がある中での生活を送っています。

やりたいことがすべてできるわけではない状況に、わざわざ留学した意味はあるのだろうかと思うこともありましたが、今では制限された状況のおかげで、当たり前前に学校に行き、ホストファミリーと過ごせること、普通の生活が送れることがどれだけ素晴らしいことなのかを実感することができました。日本の高校では体験することのできない日々を過ごせているので、今年留学できた価値は十分にあると思います。

最後に、この奨学金の支援のおかげでこの4か月間、日本では体験できない貴重な体験をさせていただきました。奨学金を支えてくださっている皆さま、本当にありがとうございます。残りの期間も新型コロナウイルスの影響で例年のようにやりたいことはできないかもしれませんが、その中でも自分でできることを探し、留学生生活を精一杯過ごしていきたいと思っています。



Scholars Report



奨学生レポート

“

とてもいい時間を過ごし、
この国のことを
もっと知りたくなった。

アウグスト・トマス・ロドリゲス・
ボエフレイ Augusto Tomas Rodriguez Voefrey

どさんこ奨学金 奨学生 (2020年度)

🇯🇵 日本へ留学



友達とともに。
『Sapporo International Night』にて



ホストブラザーとともに。
家族写真の撮影日

Scholarship Report

奨学金 Scholarship	どさんこ奨学金	出身国 Nation	アルゼンチン
派遣時期 Year	8月	支部 Chapter	札幌
名前 Name	アウグスト・トマス・ロドリゲス・ボエフレイ Augusto Tomas Rodriguez Voefrey	在学学校 School	北海道札幌国際情報高等学校

タイトル: 私の経験

私がこれから話すのは私の日本での経験です。私は日本に到着して日本での新しい発見
におどろきワクワクしていました。その時は日本語があまり話せませんでした。
日本でのはじめのころは、札幌での留学生のキャンプでした。そこで私はたくさん日本の習慣と言葉を
学びました。たくさん友達を作りました。そのあと札幌に来たホストファミリーとAFSの
さん(ファミリー)と4か月すごしました。その家族はとってもやさしくて、その家では多くのイベントがありま
した。たとえばクリスマス、節分と新年もすごしました。
今私の新しいホストファミリーの各前はさんです。この家族もとても温かくて面白くて兄弟と親の英語
は上手で彼らはいつも助けてくれます。
学校では私はSIT(北海道札幌国際情報高等学校)の学生です。学校生活は
なまあたらしいです。
学校でたくさんの友達と先生に会いました。陸上部にも入りました。しよら、かどう、とさどうなどの
異文化体験もしました。
また、発表を行ったり、Sapporo International Night, などのイベントに参加したりしました。
また神社や温泉などたくさんの場所を訪れ、たくさんのおもてなしを試しました。(私の家族は
カンパです!)

私の経験はすばらしいですが、アルゼンチンとのいくつか文化的な違いがあります。

- アルゼンチンでは実名に敬称を添えて挨拶をします。
- 日本社会は敬語の使用を大切にしています。
- 日本人はいつも時間厳守です。

さうごに私が日本に来る前のイメージは、日本人はむずかしくてきびしいところ
日本人は本気だと思っていたのですが今のイメージはそんなことなく、みんな
とてもやさしくいい人になりました。

また、この国のことをもっと知りたくなりました。とてもいい時間をすごせました。

FINAL Thanks

- All my teachers for helping me every day
- My friends here and in Argentina
- my host family
- my natural family
- AFS staff and all institutions that bring me to this experience

66

たくさん、おどろいた。
しんせつなともだちと、
すばらしい人にであえた。

ジョエル・アレハンドロ・レモス・
ゴンザレス Joel Alejandro Lemos González

NEXT50奨学金 奨学生 (2020年度)

日本へ留学



テニス部のともだちといっしょに。
クラブのあとでとりました。たのしいです



ならこうえんへいきました。
しかといっしょにしゃしんをとりました。
しかせんべいをあげました

Scholarship Report

奨学金 Scholarship	NEXT 50	出身国 Nation	エクアドル
派遣時期 Year	11/2020 - 7/2021	支部 Chapter	奈良
名前 Name	ジョエル アレハンドロ レモス ゴンザレス	在学校 School	奈良県立国際高校

タイトル: アニメで知らなかった日本のこと

にほんで おどろいたことはたくさん あります。

トイレのベンジーはあたたかいです。ボタンをおすと
おやがでます。

わたしのまちには でんしゃが ありません。

日本で 毎日 電車 にのります。

こどもがーとで 電車 にのるのをみて びっくりしました。

おばあさんは 大学生 の男の人に 電車 のせまを
もらいました。

エクアドル では じどうはんばいき が ありません。

日本 では プラタノ が ありません。

プラタノは バナナ に いますが バナナでは ありません。

日本 で すきな たべものは おこの みやま カレー、

かつどん、ラーメン、すし、ぎょうざ です。

エクアドル では おべんとう が ありません カウ

がーこは 8じから 12じまで です。

いえで ひるごはん を たべます。

日本で はじめて テニス を しました。

テニス を するの は たのしい ですが つかえます。

あたしは 少く の さん に ラケット を もらいました。

ともだちが テニス を おしえて くれました。

みんな とても しんせつ です。

じゅうず になりました が カーブ は むずかしい です。

あと 日本 で 4かげつ あります。

ともだちと いっしょ に ラーメン を たべに いきたい です。

日本語 の えいが を みたい です。

日本 にきて、すばらしい 人 に あいました。

日本の ぶんか を まな が ぎがいを あたえて くれました。

AFS に かんしゃ します。



Scholars Report



奨学生レポート

AFS日本協会は、2021年（68期）から、派遣プログラムを再開しています。本欄で紹介するのは、2020年・67期生として渡航した直後に緊急早期帰国となった生徒のうち、本人が留学継続を希望し、2021年に再渡航した奨学生によるレポートです。

“

自分から行動することで
楽しく悔いのない留学生活を。

長谷川 麗奈 Reina Hasegawa

68期(2021年)  ドイツ派遣

(公財)森村豊明会 高校留学奨学金を受給



学校の体育の授業で。
学校外を走った時にクラスメイトと撮った写真



私の誕生日にファミリーと。
ピクニックに行った時の写真

67期として1か月で緊急帰国し、68期として2回目のドイツに来て、長いようで早くも4か月が経とうとしています。コロナの中で留学して良くなかったことは、残念ながらゼロではありません。例えば、学校が最初の方はオンラインだったこと、学校に登校できてもクラスメイトと距離を保たなければならないこと、行きたい場所があっても行けないことなどです。

しかし、オンラインや日本の生活では実現していないであろう成長ができていると、自分なりに思うことがあります。まずは、ドイツ語です。最初は簡単な挨拶くらいしかできなかったのですが、簡単な日常会話ができるようになったり、聞き取れたり、とても成長しました。学校の授業は英語、数学、生物、ドイツ語を半分以上は理解できるようになりました。

もうひとつは、自分から行動するということです。留学の目標のひとつとして、「長い付き合いのできる友達をドイツの学校で自分の力で作る」というのがありました。しかし、現実はその甘くなかったです。ドイツ人は、シャイな人や、英語話せないからという理由を作り距離をとってくる人、自分の周りの人とだけ仲良くするという人が多いように感じました。

一年しかない留学生活、このまま何も行動せずに終わるより、勝手に落ち込まず、行動してから落ち込もうという考えに変えました。そして、どうせ話しかけるならドイツ語で会話がしたいと思い、学校の前日に話したい内容を考え練習し、その内容を話したらその日の目標達成という風になっています。実際話しかけてみると、割と相手が自分の話もしてくれたり、私がドイツ語で理解できなかった時に英語は話せないと言っていた子が英語で説明してくれたりします。今では、ほとんどのクラスメイトと話することができます。もっと仲を深めたいと思った時は、休みの日に遊びに誘ったりしています。

残りの7か月も、こんな大変なコロナの状況にも関わらず私を受け入れてくれたホストファミリー、仲良くしてくれている学校の友達、AFSで出会った人、日本の家族、私の留学を支えてくれるすべての人への感謝を忘れずに、日本では経験できないことにたくさんチャレンジし、一生の思い出に残る楽しく悔いのない留学生活にしていきたいです。

“

「コロナに負けない」。
実際に肌で感じなければ
わからないことがある。

五月女 修斗 Shuto Saotome

68期(2021年) ドイツ派遣

(公財)森村豊明会 高校留学奨学金を受給



友達とともに



乗馬に挑戦

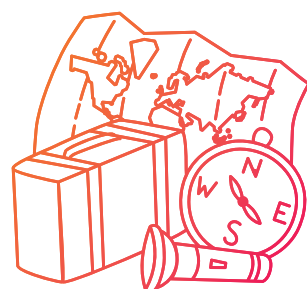
僕が日本からドイツに旅立ってからもう4か月が経ちました。今こうして振り返ってみると、時がたつのはとても速いなあとということに改めて気づかされます。

去年はコロナの影響で、たった7日間で日本に帰ることになり、また留学することはできるのかと心配でしたが、この不安定な状況下でも無事に渡航でき、現在こうして毎日とても充実した留学生活を送ることができています。今年は去年とは違う学校に配属されることになり、最初はせっかくできた友達と違う学校で少し残念だなあと思っていました。それに加え、僕が到着した頃はちょうどドイツがロックダウンになっていて、学校には通えず、オンライン授業を受けなければいけませんでした。ロックダウン時のルールは日本の緊急事態宣言などにおけるものとは違い、強制力が強くとても厳しいため思うように行動できず、何だかやるせないような感情がありました。

しかし、このご時世だからこそ、僕の中で最初から決めている大事なことがありました。それは「コロナに負けない」ということです。たくさん制限があるなか、コロナだからと言って僕の貴重な留学生活の時間を無駄にしたくない、コロナだからと言って普通に留学生活を送ることのできていた先輩に負けたくない、というような悔しさを感じたからです。決して勝負ではないのですが、そんな状況下でもできることはたくさんあったので、暇な時間は作らずできる範囲で常にアクティブに行動した結果、ロックダウンでさえも有意義に過ごすことができました。

現在では、新しい学校にもすっかり慣れ、現地の友達もたくさんでき、ホストファミリーともよい関係を築けて、輝かしい毎日を過ごせています。ドイツ語は、参考書などで事前に勉強していたこともあり、今では日常会話は不自由なくできるようになりました。言語に限らず学ぶことが多すぎるこの留学生活、実際に肌で感じなければわからないことがまだまだたくさんあります。

この年間プログラムで誰よりも楽しみ、誰よりも成長できるようにこれからも頑張ります。そして今回、僕に奨学金を授与していただき本当にありがとうございました。このご時世、経済的にも不安定な中、僕の夢を応援してくれた両親にも感謝を忘れず、6か月後また何回も成長した僕の姿を、みんなに見せたいです。



2020年度は、107の企業・団体、
のべ2,473人の皆さまからご支援いただきました。

人の移動や集まりが規制され、渡航がきびしく制限されるなか、私たちが社会の分断を越えて
「共に生きることを学ぶ」活動を継続できるのは、AFSを応援くださる皆さまのお陰です。
より多くの高校生と、彼らが過ごすコミュニティのために、異文化を学びあう機会をご提供いただき、ありがとうございます。

*「One AFS 緊急募金」にご支援いただいた個人の皆さまは、P.21でご紹介しています。あわせてご覧ください。

企業・団体の皆さま

(2020年1月1日～12月31日) *敬称略・50音順

ソニーグループ国際教育基金 / 公益財団法人田口福寿会 / 一般財団法人東海東京財団 / 福岡
城西ロータリークラブ / 米国伊藤財団 / 三菱商事株式会社 / 公益財団法人森村豊明会

株式会社オデッセイコミュニケーションズ / 株式会社クリーンテック / 公益財団法人東京コミュニティー
財団 / 公益財団法人長岡米百俵財団 / 公益財団法人新潟市国際交流協会 / ホクセイプロダクツ株式会社 /
有限会社ランゲージハウス

ケイモンドコンサルティング株式会社 / 小糸製作所労働組合 / 一般財団法人静岡県労働者信用基金協会 / 静岡県労
働金庫 / しずおか焼津信用金庫 / 株式会社ジンテック / 株式会社泉州 / 株式会社坪井塗工 / 東京海上日動火災保
険株式会社 / ホクセイ金属株式会社 / 株式会社ほくていホールディングス / 株式会社大和電機製作所

愛知県立尾北高等学校 / 医療法人あいほら医院 / 有限会社赤塚工業 / 株式会社アクシス / 明や伊藤一雄 / アンドリノカトラ
ポール / イオンリテール株式会社イオンモリノ里店 / イサン株式会社 / イヅミ工業株式会社 / いながわクリニック / いりなか
眼科クリニック / 株式会社MC三河設計 / 株式会社大垣共立銀行 / 一般財団法人小川奨学財団 / 大西泌尿器科クリニック / 有限
会社お菓子屋レニエ / 河合石灰工業株式会社 / 株式会社加藤建築事務所 / 株式会社カナイ / カフェタナカ本店 / 合資会社川貞
商店 / 株式会社木村硝子店 / 共栄不動産 / 医療法人こぐま会くまざわ耳鼻咽喉科 / 公文式三原宮浦教室 / 国際ソロプチミスト
新潟・西 / 三輝工業株式会社 / 株式会社サン・モーター / 島工業株式会社 / 島工業サービス株式会社 / 株式会社鈴廣蒲鉾本店 /
一般財団法人住友理工あったか基金 / 生協法人大阪高齢者生活協同組合 / 株式会社セールスフォース・ドットコム / 全矢崎労働組
合島田支部 / 合同会社知の泉 / チャンピオンスポーツ / 中部電力パワーグリッド株式会社 / 有限会社てっちゃん / 有限会社任
田リース / 徳法寺 / 豊島株式会社 / NAO税理士法人 / 有限会社成田工務店 / 西脇医院 / 日本耐酸塩工業株式会社 / 株式会
社のいり / 医療法人浜本内科 / 株式会社PWC / 日比谷クリニック / 有限会社平田水道工業 / ファンタジーまほうの手 / 深沢
内科クリニック / 政木写真館 / 有限会社光永建設 / むかわハートクリニック / 矢橋ホールディングス株式会社 / 合資会社山本屋 /
湯河原珠算専修会 / 料亭蔦茂 / 株式会社Y's / 株式会社ワコールホールディングス

株式会社明石スクールユニフォームカンパニー / 伊勢茶推進協議会 / サッポロホールディングス株式会社 / JA全農いわて / JA全農とちぎ / 有限
会社シャポー / 株式会社セコマ / Tech Soup Japan / 西山製麺株式会社 / 株式会社バリューブックス / 株式会社フレッセイ / 株式会社北総交通 /
一般財団法人北海道青少年科学文化財団 / ホテル日航成田

AFS友の会 / 大分中部支部有志 / 東京学生部有志 / 24期有志 / 66期有志 / 匿名希望 (複数)

個人の皆さま

(2020年1月1日～12月31日) *敬称略・50音順

*One AFS 寄付会員の方を掲載しております。

データ版では非公開とさせていただきます。

AFS日本協会は、1955年の創立以来66年にわたり、世界的ネットワークを強みとした交換留学プログラムを推進してきました。主な事業収益は、日本から海外への「派遣事業」と、海外から日本への「受入事業」の2本柱で成り立っています。

2020年は、COVID-19の世界的な感染拡大により、留学生に対するビザ発給が半年間停止され、入国時は自主待機期間が設けられました。各国の感染状況も予測不能であったことから、①年間派遣プログラムの全面中止、②受入プログラムの規模縮小、③短期プログラムの全面中止（派遣・受入とも）を決定しました。基幹事業の収益が減少した結果、経常収益における補助金比率が高くなりました。

基幹事業の収益回復には数年かかると予想されることから、事務局では2024年度まで4か年にわたる事業回復モデルを策定し、運営にあたっています。

昨年は、国内の教育現場から、留学生受入れや地域交流に関する問合せ・ニーズが急増しました。ホストファミリーを希望する世帯や、AFSボランティアの登録者数が増加したことを踏まえ、受入地域の活動基盤強化に力を入れました。

留学生の感染予防対策にあたり、自主待機期間の宿泊費用など、従来にない追加費用が発生しましたが、緊急募金へのご寄付により、受入プログラムを通じた異文化理解を推進することができました。

1. 資産状況

(単位：千円)

流動資産	322,660	流動負債	215,666
基本財産	359,605	固定負債	53,206
特定資産	328,741		
その他固定資産	48,755	正味財産	790,890
資産合計：	1,059,762	負債/正味財産合計：	1,059,762
		正味財産当期増減：	△123,001

(注) 千円未満四捨五入のため、合計値が合わないことがあります。

(単位：千円)

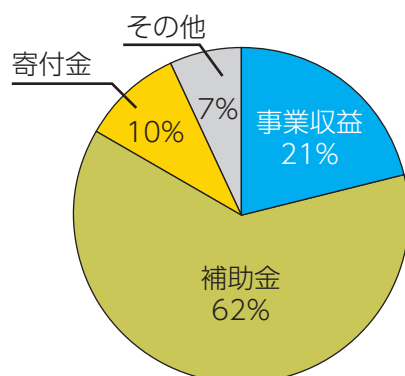
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
正味財産	873,813	900,843	968,367	913,891	790,890

2. 損益の状況

● 経常収益の合計： 400,712 千円

● 経常費用の合計： 708,953 千円
(うち 管理費： 39,861 千円)

● 経常収益内訳



● 主な経常費用

- 派遣事業
 - 受入事業
 - 支部活動支援
 - ホストファミリー募集
 - 広報・寄付活動
 - 業務支援 など
- プログラムの募集・選考
海外パートナー組織との連絡・調整
渡航や移動に係る安全対策・移動手配
プログラム参加中の安全対策・適応支援
リスクマネジメント など

COVID-19への安全対策に注力し、運営を継続することができました。

ONE AFS 緊急募金に関するお問合せ

AFS日本協会

E-mail bokin@afs.or.jp

2020年、皆さまからいただいた「ONE AFS 緊急募金」は、おもに海外から来日する留学生の安全対策（⇒P.6）や、日本の生徒を対象にしたオンラインによる異文化教育プログラムの開発（⇒P.11）に活用させていただきました。

皆さまからいただいたご寄付とご声援のお陰で、ボランティアと事務局職員が「今できること」にフォーカスし、AFSミッションの普及に全力を尽くすことができました。

私たちは、これからも10代の若者を中心に、多くの人々が多文化共生について考え、学びあう機会を持ち続けられるようにしていきます。

AFS日本協会は現在、あらゆる経費削減と事務効率化を図っていますが、①継続したボランティアの育成（⇒P.8）、②派遣・受入プログラムの安全対策と運営（⇒P.4～7）、

③AFSのネットワーク、知見と経験を次世代に受け継ぐために、合計1億円のご支援を必要としています。

学びのプラットフォームが失われることなく、異文化理解教育の活動を継続できるよう、引き続きお力をお貸しください。今後もAFSへご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご寄付の活用例（2020年度）

- ・留学生の安全対策
（自主待機期間中の施設宿泊費・衛生キット配布など）
- ・オンラインによる異文化交流機会の創出
- ・AFS活動を支えるボランティアの育成、研修の実施
- ・安全なプログラム実施に向けた情報収集、調査、リスク分析
- ・新しい時代に即した異文化学習プログラムの開発

引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。



左記のクレジットカードがご利用いただけます

AFS 緊急募金

検索



銀行振込の方は、お手数ですが、通信欄に「緊急募金」とご明記の上、右記の口座にお振込みください。



〇一九店 当座0610779 AFS寄付金口座
(00170 5-610779)

Voice from One AFS

わたしがAFSを支援する理由

“ 滞在予定が半年になっても、
できることすべてを体得した。

(2019年/66期 派遣生保護者)

コロナウイルスが蔓延するヨーロッパより無事帰国できた事、心よりお礼を申し上げます。10か月の派遣予定が半年にはなりましたが、当時出来るすべての事、息子はホストスクール、ホストファミリーの皆様と共に経験し、体得出来たかと思います。今度は、少しでも私のご恩返しが出来ればと思い、先日ホームページを拝読し、このたび募金が出来たらと思いました。途中帰国した派遣生の皆さんのみならず、今年度出発予定だった皆さんの無念な気持ちが少しでも晴れればと願って止みません。



“ AFSの持つパワーは
とても大きい。

上田 幸恵 様
(2003年/50期 派遣生)

AFSでの経験やそれらを通じ感じた多様性への信念が、今でも私の軸になり、さまざまなチャレンジへの背中を押してくれています！まさにeye openingといえる経験でしたが、それは本当に多くの有志の方々の力に支えられていたことを、改めて感じずにはいられません。Covidのこの状況は、まさに今後世界が多様性に向かうのか、分断に向かうのか試金石でもあると感じます。そのような中、AFSが持つパワーはとても大きいと信じています。大変お世話になったのに少額でめっちゃくちゃ心苦しいのですが、ともにCovidを乗り越え、今後たくさんの未来のひとたちが、AFSの活動を通じ、素晴らしい経験をしていくことを、心からお祈りしております。

「ONE AFS緊急募金」は、2020年6月から一年間でのべ636の個人、企業・団体の皆さまから、合計2,194万4,372円のご支援いただきました（2021年6月14日現在）。
新型コロナウイルス対策のためにご協力いただき、ありがとうございます。

ONE AFS 緊急募金 寄付者一覧

（2020年1月1日～12月31日）＊敬称略・50音順

データ版では非公開とさせていただきます。



“ 私たちと同じ経験を、
今後の高校生に。

伊藤 義彦 様
（1980年／27期 派遣生）

今回の新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、留学生の派遣・受入ともほぼストップした状態であると聞き、AFS日本協会が立ち行かなくなってしまうのは、私たちと同じ経験を今後の高校生ができなくなるのではないかと、強い危機感をもっています。私も自分自身や会社、家族がどうなるかについての確信は持ちえない状況ですが、まずはリターニーの一人として動きたいと思いました。AFS日本協会を守るための必要額に対しては少額だと思いますが、今回は頑張って100万円を寄付しようと思いました。今後の1～2年を乗り切るためにご活用ください。他のAFSリターニー/関係者にも、可能な限り参加していただき、支援の輪が広がることを強く期待しています。



“ 一度だけの寄付よりも、
継続的な支援を。

J.H 様
（1989年／36期 派遣生 マンスリー・カード・サポーター）

コロナという状況で直接的交流が難しい状況が生まれ、イベントやプログラムの中止、早期帰国などを見ていて、今後色々な変化の生まれた社会においても、AFSの活動がこれからも続いてほしい、こういう体験をする若い人たちがなくならないでほしい、と改めて思うようになりました。正直わたしはあまり金銭的に余裕のない生活を送っており、AFSへの寄付も行っていませんでした。でも、AFSの現状と今後ポスト・コロナの新しい形のプログラム提供も開発していく開発費なども必要であろうと考えたとき、一度だけ寄付を行うよりも、継続的な寄付会員のほうが良いだろうと、継続支援を決めました。

One AFS

異文化理解の機会を提供しつづける
AFSの仲間になってください。

ご寄付・遺贈・生前贈与に関するお問合せ

AFS日本協会

E-mail bokin@afs.or.jp

AFSの組織基盤を支える ～ 1日33円（月1,000円）からの定額寄付

マンスリー・カード・サポーターになる

One AFS 寄付会員

年間約500人の留学生を迎えることは、簡単なことではありません。地域の方々へ異文化に触れる楽しさを伝え、学校・先生方と協働し、ホストファミリーや留学生の相談に乗り、「ちがい」から生じる課題を共に乗り越える。同時に、留学準備中の日本の生徒もサポートする——AFS発展の鍵は、全国約1,500人のボランティアです。

AFSを継続的に支える「マンスリー・カード・サポーター」は、AFSの心臓部であるボランティアを育てる力強い支援になるだけでなく、緊急時の迅速な対応や、新しい事業を後押しする事務局の力にもなります。10代の成長と異文化理解の推進を絶やさないためにも、ご支援をよろしくお願いいたします。



マンスリー・カード・サポーターにご登録くださった方にはOne AFS 寄付会員証を発行し、年に1度、報告書「This is AFS Effect」をお届けします。

例：月々 1,000円のご寄付の場合
年間寄付額 1,000円/月 × 12か月 = 12,000円

*一部を支部へのご寄付に指定することもできます。

お申込みはAFSのWEBサイトから

右記クレジットカードが
ご利用いただけます



AFS マンスリー

検索



銀行からの自動引落（口座振替）をご希望の方は、AFS日本協会事務局までご連絡ください。

お好きな額で生徒の留学を支援する

奨学金を指定して寄付する

AFSには、途上国・新興国から日本を志す高校生のための奨学金と、日本から世界へ留学する高校生のための奨学金があります。

経済的な理由によって、世界の高校生が留学の夢をあきらめることがないよう、「すべての高校生に留学の機会を提供する」ことが目標です。奨学金基金へのご寄付は、任意の額で受付しています。ご協力をよろしくお願いいたします（⇒P.12）。

お申込みはAFSのWEBサイトから

AFS 寄付

検索



右記クレジットカードが
ご利用いただけます



銀行振込の方は以下の口座にお振込みください

ゆうちょ銀行 | 〇一九店 当座0610779 AFS寄付金口座
(00170 5-610779)

ご意向や業種などにあわせてご支援

企業・団体として支援したい

青少年の育成、異文化理解の促進、地域の国際交流や活性化につながる社会貢献活動として、多くの企業・団体の皆さまにご支援いただいております。支援の方法として、①法人サポーターへのご登録*、②奨学金設立、③一般寄付、④マッチングギフト（社員+法人によるご寄付）、⑤商品ご提供による留学生支援（制服、お米、自転車など）、⑥ボランティア活動への協力、⑦ホストファミリー募集、⑧AFSプログラム参加生のインターンシップがあります。

ご支援いただいた企業・団体のお名前を、AFS日本協会のウェブ、活動報告書等に記載させていただきます。

*法人サポーターは、年額3万円から承っております。

AFS 法人団体

検索



本で寄付する

古本募金（チャリボン）

ご家庭や職場で読み終わった書籍やDVDを、“チャリボン”を通して、寄付することができます。日常生活の“断捨離”で読まなくなった本やDVDをAFSの活動資金に……と多くの方にご協力いただいております。研究職・専門職の方、大学にお勤めの方のご利用もあります。昨年は、書籍・DVD計1,646点が買取対象となり、115,081円をご寄付としていただきました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。古本による募金活動は、通年お申し込みを受け付けています。

お申込みはWEBサイトから

AFS チャリボン

検索



運営：株式会社バリューブックス

ふるさと納税で寄付する

※「港区版ふるさと納税制度」は個人の方が対象です。

港区版ふるさと納税制度「団体応援寄付金」

AFSが事務所を置く東京都港区は、返礼品によらず“納税者が自ら寄付先を選択し、地域を応援する”ふるさと納税制度を設けています。「団体応援寄付金」は、同区に拠点を置く公益団体の中から、寄付者が応援したい団体を指定し、寄付できるしくみです。寄付お申込みの際、AFS日本協会を指定いただくと、寄付額の7割（上限）が、AFSへ補助金として支給されます。ワンストップ特例制度も利用いただけます。

港区 ふるさと納税 団体

検索



お問合せ・お申込み

港区企画経営部企画課企画担当
（ふるさと納税制度「団体応援寄付金」担当）

電話：03-3578-2622 FAX：03-3578-2034

寄附金控除

AFSへのご寄付は、寄付金額に応じて、個人又は法人の所得から一定額を控除する等の税制上の優遇措置が受けられます。AFSからお送りする領収証を、確定申告にご利用ください。

▼**個人の場合**……確定申告により「税額控除」もしくは「所得控除」のいずれかで、所得税の寄附金控除を受けることができます。遺贈の場合、相続税も控除対象になります。東京都にお住まいの方は、個人住民税の軽減措置（寄附金控除）も受けられます。

▼**法人の場合**……特定公益増進法人に対する寄付金として、「寄附金の合計額」か「特別損金算入限度額（※所定の計算方式に基づきます）」のいずれか少ない金額の損金算入が認められます。くわしくは国税庁HPをご覧ください。



公益財団法人
AFS日本協会
UNESCOオフィシャルパートナー

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-16 虎ノ門菅井ビル6F

Email info@afs.or.jp

AFS日本協会

検索

www.afs.or.jp

@afsjapan

@afsjapan

@afs_japan

AFS Japan

AFS日本協会事務局からのお知らせは、主にメールでお届けします*。住所・電話番号やメールアドレスのご変更は下記QRコードまたはURLにアクセスいただき、ご連絡いただきますよう、お願いいたします。

*支部の通信・地域奨学金に関するお知らせは、郵送にてお届けする場合があります。

http://shortlinks.afs.or.jp/address_change



SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS**



AFSは「持続可能な開発目標 (SDGs)」をサポートします。

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」・世界を変えるための17の目標のうち、目標4と目標16の実現に向けて行動しています。